



# 将来一層深刻化する医療人材不足

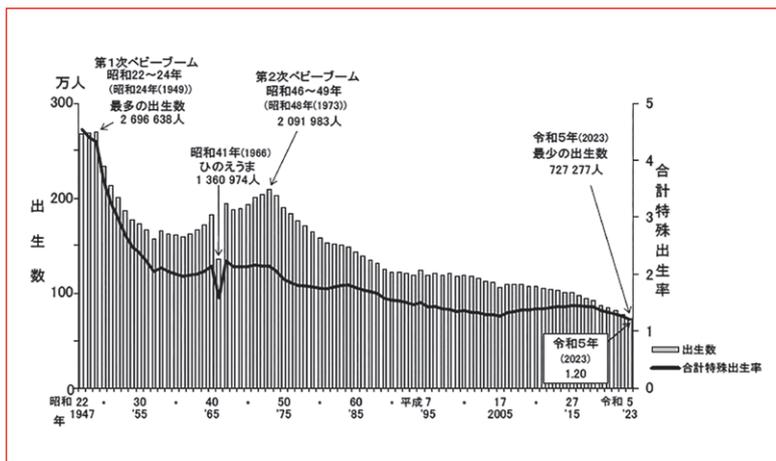
城西大学経営学部教授 伊関友伸

**2023年の出生数は  
72万7277人**

2024年6月5日、厚生労働省は「2023年人口動態統計月報年計(概数)の概況」を公表した。図1のように、わが国の2023年の出生数は72万7277人で、前年の77万759人より4万3482人減少し、過去最少となった。その年次の15〜49歳までの女性の年齢別出生率を合計した合計特殊出生率は1・20で前年の1・26より低下している。

『市政』2023年8月号の「看護師不足問題を考える」でも紹介したが、最近、自治体病院の現場に入ると聞こえてくるのが、深刻な看護師不足である。多くの自治体病院が新型コロナウイルスへの対応を積極的に行った。まん延時は多くの看護師が一生懸命看護を行っていたが、感染が落ち着いてきて若い看護師を中心に退職が相次いでいるというものだ。

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



厚生労働省「2023年人口動態統計月報年計(概数)の概況」

西日本の県庁所在地に立地する、ある自治体病院は地域の中核病院として県内で最も多くの新型コロナウイルスの入院患者を受け入れた。し

かし、その後看護師の退職が相次ぎ、入院患者の受け入れが困難となり8割前後で推移していた病床稼働率が2023年度には約60%まで落ち込む。病床稼働率の低下は大幅な収益悪化を招いている。

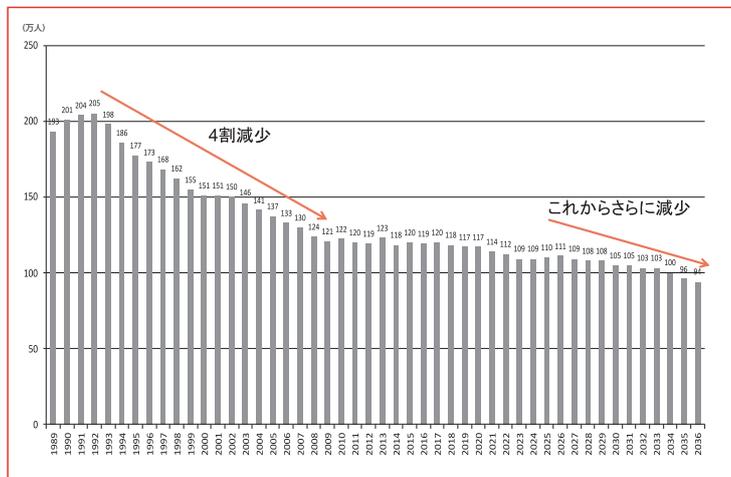
これまで看護師の雇用難は、交通の悪い地方の自治体病院で深刻であったが、現在は都市部の中核病院でも起きており、完全に環境が変わったと感じている。

## 激減する18歳の人口

『市政』2023年8月号でも書いたが、看護師不足は新型コロナウイルスの影響が大きかったが、根本的な要因として少子化の進展による「18歳の人口の減少」があると考えられる。

図2のように、1992年に205万人いた18歳の人口は2009年には121万人となり4割減少。2009年から2017年までは120万人前後を維持していた(本来であれば第3次ベビーブームが起きていた世代

図2 平成に入ってから18歳の人口の推移



文部科学省「18歳人口と高等教育機関への進学率等の推移(2023年9月25日)」のデータにより作成  
2023年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計、出生中位・死亡中位)」を基に作成

であったがベビーブームは起きなかったが、2023年には109万人と110万人を割っている。2035年には96万人と100万人を割り込むことになる。

その後も出生数は減少の一途をたどり、8年後の2041年の18歳の人口は72万人程度となる。2024年の109万人から2041年の72万人程度まで約37万人程度減少することになる。

毎年の18歳の人口の大幅減少により、これまでのような医療提供体制を維持することは困難になると思われる。医療人材の配分を

考えても、2023年の出生数72万人に対し、2023年の医学部定員9384人(文部科学省データ)、2021年薬学部定員1万3205人(2022年7月22日薬学部教育の質保証専門小委員会資料)、看護師養成所総定員25万8068人(2022年度、日本看護協会データ)である。このほか臨床検査技師や放射線技師などの医療技術職や介護専門職の人材確保を考えれば人材は全く足りない状況となる。

当然、日本の社会を維持するためには、農林漁業、建設業、運輸業、商業、小売業、サービス業、教育・公務分野などの人材配分が必要となる。医療・介護人材に配分できる人材数には限りがある。

## 医療人材不足時代の自治体病院

これから、医療への人材供給が大幅に減少する一方、後期高齢者は急増していく。過去経験したことのない医療人材の需要と供給の変化は、これまでの医療提供体制の在り方に大きく変更を迫るものと考えられる。これまでの常識が通じない時代となることが確実である。医療・介護人材不足は、ある程度人工知能やロボット・ドローンなど科学工学の進歩などで仕事を置き換えていくことはできる。しかし、医療・介護のケア部分は簡単に置き換えることができない。医療施設や医

### 筆者プロフィール

#### 伊関友伸 (いせき ともし)

1987年埼玉県入庁、県民総務課、大利根町企画財政課長、県立病院課、社会福祉課、精神保健総合センターなどを経て、2004年城西大学経営学部准教授、2011年4月同教授。研究分野は行政学。総務省「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化に関する検討会」構成員など、数多くの国・地方自治体の委員を務める。総務省経営・財務マネジメント強化事業アドバイザー。著書に『新型コロナから再生する自治体病院』(ぎょうせい2021年)など。

療人材の役割分担について抜本的に見直し、新しい形に置き換えていくことが必要となる。少なくとも、これまでのような人を使い捨てるモデルは限界を迎えている。いかに地域の医療人材を育てるか、能力を高めるかが重要な時代となる。

自治体病院は、新型コロナウイルスへの対応が典型であったが、緩衝材として地域の課題に対応する医療機関である。時代の大変化を読み、対応していくことがこれからの自治体病院に求められていると考える。

タイトルの「アスクレピオスの杖」とは、ギリシア神話に登場する名医アスクレピオスの持っていた蛇(アスヘビ)の巻きついていた杖。医療・医術の象徴として世界的に広く用いられているシンボルマークである。